

V

KOBE COLLEGE
NEWSLETTER

Vistas

“Beauty Becomes a College”



29

2016・June

Published by KOBE COLLEGE

神戸女学院大学

◎2017年4月から始まる新カリキュラム
伝統のよさを活かし、
自ら学ぶ姿勢を育む
スタイル
—進化するリベラルアーツ教育—

◎天皇制の歴史を辿り、社会を考察する——8

戦後の日本社会と象徴天皇制

河西 秀哉 准教授

◎原著者の想いを読者のもとへ——9

文章を紡ぎ直し、伝えられる喜び

出版翻訳者 増田 沙奈 さん

◎iPadを使った授業

授業が「講義でなくなる」反転授業——11

◎地域活性化総合実習

「防災ウォッチ」で楽しみながら防災意識をUP!——12

◎英文学科・共通英語教育研究センターのジョイントイベント

映画を通し、グローバルな視点から社会問題を考える——13

◎学生自治会の取り組み

キャンドルナイトで女学院生の交流を深める——14

◎大島初枝記念賞受賞／フィリピンでファッションショーを開催

ゴミ山で暮らす子ども達に舞台を！——15

◎第2回 英語検定懸賞コンペティション・表彰式

英語能力テストの好成績者をさらなる高みへ——17

KCインフォメーション——19

●2017年4月から始まる新カリキュラム

伝統のよさを活かして、

スタイル

自ら学ぶ姿勢を育む

—進化するリベラルアーツ教育—

▼リベラルアーツ・カレッジの先駆けとして

齋藤 学長 本学は2014年に「2018年問題検討ワーキンググループ」を設立し、溝口先生を中心に新カリキュラムの構想を練り、いかに本学の魅力を世の中に発信していくかを考えてまいりました。

今回、新カリキュラム開設という大きな改革を行うことで、より充実した学びの環境が整備されましたね。

溝口副学長 はい。2018年問題は単なる学部や学科の新設で対応できる問題ではありません。今後10年間で、既存の職業の約50%が無くなると言われます。つまり、21世紀を生きる学生は、長い将来、仕事を幾つか変えることになる。大学が昔と同じ教育、考え方でいては、学生が時代の変化に取り残されてしまいます。

本学ではこれまでに、英文学科以外の学生も将来、グローバル社会で活躍するための英語力を身につけられる「共通英語教育」や、全学部生が専門分野はもちろん、他分野の知識や技能も修得できる「リベラルアーツ&サイエンス・プログラム」を開設してきました。新カリキュラムにはそれらも含まれており、本学の伝統のよさを活かして進化させた内容となっています。

齋藤 本学の伝統といえば、教育の3本柱である「リベラルアーツ&サイエンス」「国際理解」「キリスト教主義」。私



齋藤 学長(右)と溝口副学長

達は二人とも神戸女学院のOGであり、大学の魅力を十分に理解した上で時代に沿った教育をと考えているわけですが、溝口先生は、神戸女学院らしさをどのようにお考えですか？

伝統も重要です。本学は1948年に日本で最初に新制大学として認可を受けた一校であり、キリスト教に基盤を置く女子のリベラルアーツ・カレッジの実現を目標に教育が進められました。少人数制で、学生は特定の専門分野に特化せず、自然科学、人文科学、社会科学の3分野に渡る教育を受けました。全学生が3分野をまんべんなく勉強し、実験なども行っていたのです。このように広い視野を確かに備えることを目的にした教育は、新カリキュラムに受け継がれています。

齋藤 多面的な深い教養を身につける教育は、これからの学生により必要となってきました。様々な分野の知識を持つという事は、人とコミュニケーションをとる上でとても役に立つはず。誰とでも対等に話ができ、

自信にも繋がるでしょう。

溝口 リベラルアーツ教育は、学生の学びたいという意欲を育て自ら学ぶ姿勢として確立する教育です。複数の専門を深く学ぶ機会があるのも、自ら学ぶ姿勢が身につくからこそ。他の専門教育大学はある分野の知識の構築を目的としている場合が多いですが、本学は全人的な人間を育てることにも力を置いており、その違いはとても重要なポイントです。

齋藤 単一の専門性だけでは社会に出た際にやっていけませんよね。また本学のリベラルアーツ教育は「人間として大切なものを身につける」という考え方。自分の中により多くの引き出しを作り、それがあつて多面的に物事を判断し、柔軟な対応ができる。そんな器の大きな人間を育てる教育です。

▼神戸女学院で育む7つの力とは

神戸女学院大学での教育目標 本学で育む7つの力

- 愛と奉仕の精神
自分を深め、人に尽くす大切さを理解し、行動することができる
- 豊かな感受性
知的、感情的、美的なものに対する感性や理解を高めることができる、多様性理解
- 論理的思考力
論理的に自分の考えを構築できる、プレゼンなどを通して、客観的で説得力のある意見を述べるることができる
- コミュニケーション力
相手を共感的に理解し、自分の意見を伝えることができる、相手を尊重しながら、議論することができる
- 専門的知識と技能
専門的な考え方、見方ができる、専門的なパフォーマンスができる
- 創造力と企画力
偏見から自由な柔軟な思考ができる、多角的に考えることができる、創造的な問題解決、表現ができる
- 主体的に学び続ける力
知識の大切さに気づくことができる、資料収集・読解を自ら進んで行うことができるようになる、質問力が身につく、生涯学ぶ力

齋藤 新カリキュラムは、「本学で育む7つの力」を教育目標として掲げています(右表参照)。導入に伴い、教員も多くの引き出しを持ち、学生に対応しにくいなくては。本学が目指す目標を言葉で表すことにより、教員の学生への接し方が変わり、学生も学ぶ意欲が高まるよう期待しています。

溝口 どの科目を受講すればどのような力を伸ばすことができるのかシラバスにも記載しますから、教員と学生がしっかりと目標を共有して欲しいですね。また学習ポートフォリオも活用します。教員と学生の関係が近い本学では教員と相談しやすい環境があることも強みですね。

「学びたい」、 「知りたい」を充たす リベラルアーツ教育

広げる

さまざまな科目の学びに掘り
柔軟で幅広い視点、
多角的なものを見方を
手に入れます。

Liberal Arts

深める

メジャー科目やマイナー科目にて
専門性を深く追求していきます。
問題発見力や解決力を
高めていきます。

つなげる

学びを活かすための
コミュニケーション力、協調性があり、
リーダーシップの取れる
国際人をめざします。

リベラルアーツ & サイエンスカリキュラム

特色プログラム

より実社会に即した高度な学修を行うプログラム。学外の講師も招き、実践的な学びを展開します。

キャリアデザインプログラム

- メディア・コミュニケーションコース
- アート・マネジメントコース
- ホスピタリティ・マネジメントコース

通訳・翻訳プログラム

翻訳者、通訳者の指導の下、実践的言語コミュニケーション力を養う。

地域創りリーダー養成プログラム

行政、企業、NPOと連携し、コミュニティ政策的な学びの展開。

オープン

各学科提供科目群と全学科科目群からなる触発系の科目。各学科提供科目群では、メジャーやマイナーとして履修する学生と同じように、各学科の科目を履修することができます。全学科科目群では、さらに学部に関わらずに広い教養を得ることを目的とした科目を設けています。

メジャー

各学科の専門科目。3学部5学科それぞれの、専門的知識と技能を深く学んでいきます。

- 文学部 (英文学科/総合文化学科)
- 音楽学部 (音楽学科)
- 人間科学部 (心理・行動科学科/環境・バイオサイエンス学科)

マイナープログラム

メジャー以外に3学部19分野のうち1分野を選択。他学科の学びを通して、多角的な視点と、より創造的に物事を考えることができる力を養います。

専門

教養

クローバーゼミ

1年生の後期にひとつのトピックに対して人文科学/社会科学/自然科学の3分野それぞれのアプローチから考察を深めていく科目。読む、調べる、ディスカッション、プレゼンテーションなどの基本的な能力を身に付け、多角的な視点で物事を捉えられるようになります。

コア

キリスト教、英語、第二外国語、IT、体育学の5つの必修科目群。社会に出る上で必要な素養を身に付けることを目的とします。

専門分野とともに他分野の学びにも触れ 多角的な視野を養う新カリキュラム



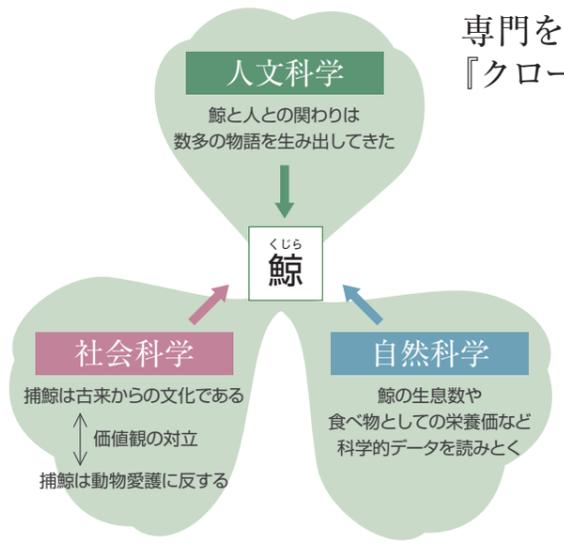
自らの想像力や改革力を見出し、その能力を自分だけでなく他人のためにも使って欲しいですね。(溝口)

▼学びの基礎、芯となる「コア科目」

育藤 新カリキュラムは、専門科目の「メジャー」と必修科目の「コア科目」を中心に、多様な学びを学生自身が組み立てていく仕組みになりました。溝口 「コア科目」は、キリスト教、英語、第二外国語、IT、体育学の5つの科目群と「クローバーゼミ」で構成されています。キリスト教はよく生きることを学ぶ機会であり、生涯を通して心の健康を支える本学の礎。語学は異なる世界観を学ぶ入口として2カ国語以上を学びます。そして、この度新しく加えたITは情報化社会に必要な知識や技能を習得。体育学は運動するだけでなく、生涯を視野に女性の身体の健康について学びます。

育藤 英語には本学独自の「共通英語教育」を用い、全学部生に1年生から実践的な英語を学んでいただきます。特に音楽学部の学生は心配しながら入学してきますが、前期は「英語は苦手」と言っていた学生も、夏休みを過ぎる頃には「楽しくなってきた!」と言う。英語でコミュニケーションがとれるよ

専門を越えた学びのカタチ 『クローバーゼミ』



うになり、恐怖心が無くなるのです。TOEICのスコア等にも成果は、はつきりと出ています。溝口 1年生後期からは、新しく「クローバーゼミ」も始まります。授業は人文科学、社会科学、自然科学の先生がチームで進め、学生も学部を横断し共同で学びを深めていく。1つのトピックを異なる3分野から考察し、多角的に考え、自ら学ぶ方法に気づくことが狙いです。英語だけで学べるクラスもあります。育藤 まさにリベラルアーツの原点であり、新カリキュラムの目玉とも言えます。扱うテーマも興味深いですね。溝口 はい。例えば、「鯨」がテーマの場合、その考え方は立場や状況で変わります(左図参照)。どれが正しいかではなく、ディスカッションし、どの立場の正しさをも理解することで、広く捉え深く考える姿勢を身につける。その姿勢は、

自分の得意を伸ばす専門課程での学びをさらに発展させる原動力となります。育藤 どんな発表成果が出てくるのか、今から楽しみにしています。

▼視野を広げるオープン科目とマイナープログラム

溝口 入学時に選んだ専門分野以外の科目を学べる仕組みも充実しました。誰でも履修できる「オープン科目」は他学科の学問への入り口。ここで学びの基礎に触れ、より深めたい学生は、2年生からの「マイナープログラム」を履修。接続して専門的な内容を習得できます。育藤 「オープン科目」には、女性学や人権論など、教員がチームで担当する学際的科目や、実地体験型科目があるのも特徴ですね。溝口 キャンパス、地域、海外とフィールドワークの場を様々な用意しています。学生自らが岡田山の自然環境を調査し、改善策を検討、提言する「神戸女学院エコプロジェクト」、地域でのインターンシップやサービスマーケティング、ヨーロッパやアメリカ、インドなど世界各地でのプロジェクト型科目を通して、学んだ力を実践の場で試します。

▼独自の学びを提供する特色プログラム

育藤 「特色プログラム」は、現場で活躍するプロを講師に迎えた実践、体験型プログラムです。文部科学省の現代GPプログラムに採択された3つのプ

プログラム——「キャリアデザイン」「通訳・翻訳」「地域創りリーダー養成」を発展的に継承、整備したもので、定員はありますが誰でも履修可能です。溝口 地域やNPO法人、企業等とも連携した学びの場で実力をつけることに焦点を置いています。例えば、キャリアデザインの学生は、マスメディアの方からパンフレット製作を学び、4月に本学の重要文化財紹介冊子を発刊しました。育藤 通訳・翻訳プログラムを履修した音楽学部の学生が、アメリカの大学に留学した例もあります。彼女は国際的に音楽教育へ関わるという人生の目標を得て、もうすぐ渡米します。意欲さえあれば、専門性に関わらず様々な方向に羽ばたいていけるのです。

こそが社会の大半を成り立たせている」という一節があります。本学は、そうした一見小さな力を大切にしてきた大。学生には、自らの想像力や改革力を見出し、その能力を自分だけでなく他人のためにも使って欲しいですね。育藤 それぞれがキリスト教の精神です。女性は男性と比べ、直線的な道を歩むことは難しいのです。結婚、出産などにかかわらず、キャリアを方向転換せざるをえない場合もあります。置かれた立場で自分らしさを失わずに、イキイキと歩んで欲しいのです。新カリキュラムは自ら学び、行動する力を養える内容。きつと人生の大きな土台になるでしょう。

■育藤 言子(さいとう・ことこ)
神戸女学院大学学長。神戸女学院大学音楽学部、同研究生修了後、ミラノヴェリディ音楽院に学ぶ。1992～1993年、南カリフォルニア大学客員研究員。専攻は声楽。1999年より神戸女学院大学音楽学部教授。日本やイタリヤ、アメリカにて多くのオペラに主演し、数々の国際コンクールで上位入賞を果たす。平成27年度和歌山県文化功労賞受章。大阪国際コンクール最優秀指導者賞。関西二期会副理事長、日本演奏家連盟会員ほか。

■溝口 薫(みぞぐち・かおる)
神戸女学院大学副学長・教務部長。神戸女学院大学英文学、同大学院修士課程修了。1989年～90年、U.C.バークレイ大学院英文学客員研究員。専攻は、イギリス文学、19世紀小説。2003年より神戸女学院大学英文学教授。著書「ヴィクトリア朝—文学・文化・歴史」(共著)、「探偵小説と多文化文化社会」(共著)、「共同講座—20世紀のヴァグネル」(共著)。

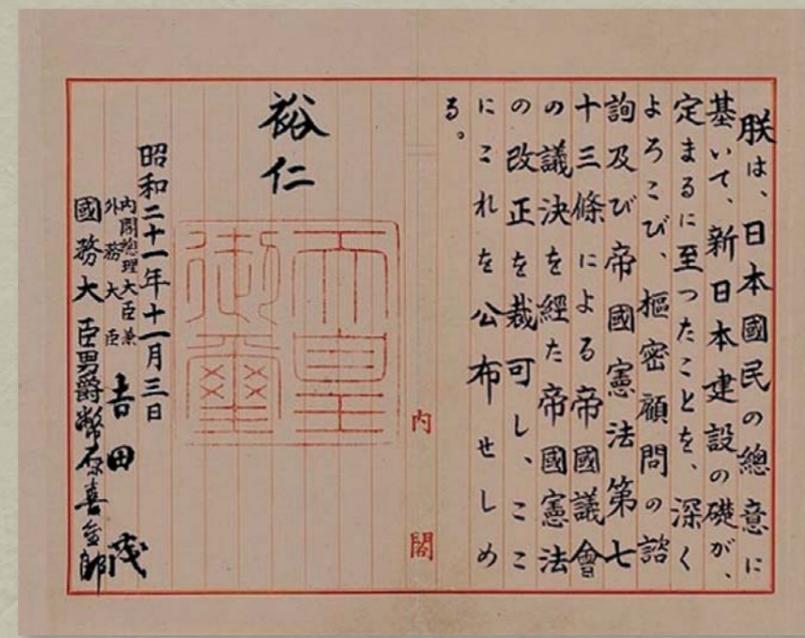


新カリキュラムは自ら学び、行動する力を養える内容。きつと人生の大きな土台になるでしょう。(育藤)



天皇制の歴史を辿り、 社会を考察する

戦後の日本社会と象徴天皇制



■日本国憲法原案「上諭」と「御名御璽」

●文学部 総合文化学科
河西 秀哉 准教授 — KAWANISHI Hideya

日本国憲法第一条「天皇は、日本国の象徴であり日本国民統合の象徴であつて、この地位は、主権の存する日本国民の総意に基く。」
テレビや新聞、雑誌などで目にする天皇や皇后、その他の皇族の姿。私達はマスメディアを通じ、彼らにどのような感情を抱いているのか？ また、「象徴」と規定されている天皇の存在をどのように捉えているのか？
——明確に答えることが難しいこれらの問題や現在の天皇制に至る過程について、象徴天皇制の研究を展開する河西秀哉先生に話を伺った。

●文献から歴史的な事象を発掘する

まず、歴史学や象徴天皇制に興味を持ったきっかけを教えてください。
小学生の時、両親に日本史の学習マンガを買ってもらったのがきっかけです。また、5年生の時に昭和天皇が亡くなり、連日、テレビでその話題ばかりが流れていることを不思議に思い、天皇制に関心を持ちました。
そして大学1年生の時、歴史学の最初の授業で先生が象徴天皇について話をされた。私は、教科書に必ず記されている「戦後、昭和天皇が人間宣言を布した」という内容がいまいちよくわからなかったのですが、天皇が人間になつたという意味ではなく、資料からは違う意図が読み取れると説明され、ストンと腑に落ちました。「教科書に載っていることと実際は違う。面白い！」と思い、自分でも追求したくなったのです。
高校までの日本史や世界史は、まるで暗記科目のようですが、大学ではその時代の人が書いた文献を読み、当時の出来事を探っていく。資料等から世の中の事象を発掘するのです。
先生の最初の発掘は何でしたか？
大学院生の時に発表した「京大天皇事件」です。1951年11月、関西巡幸中の昭和天皇が京都大学に来学し、見物しようと押しかけた多数の学生と警備の警察官との間で小競り合いが生じ、また天皇が京大に滞在中、遠巻き



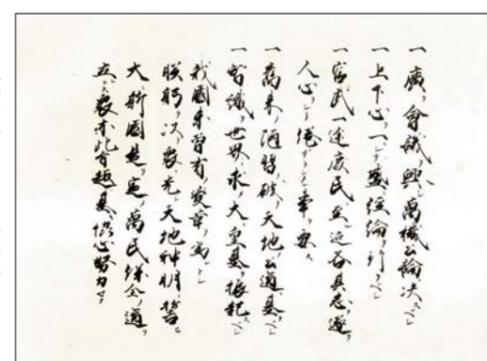
京大天皇事件(毎日グラフ)：1951年12月1日号

に見物していた学生の中から平和の歌の合唱が起こりました。天皇に危害が加えられたわけではなかったのですが、新聞や国会で大きく取り上げられ、京大生は「不敬」「極左」と批判された。研究書でもほんの1・2行しか触れられていない事件ですが、当時の人々にとっては重要な出来事でした。
関係者の方はまだ多く生存されており、「自分達の行動は、世の中にとって大きな意味があった」と喜んでくださいます。そうした生の声を聞けるのは、近現代史を研究する醍醐味ですね。

●象徴天皇制の内実を迫る

先生の研究の礎でもある「人間宣言」。なぜ、天皇は敗戦直後にそれを発布したのでしょうか？

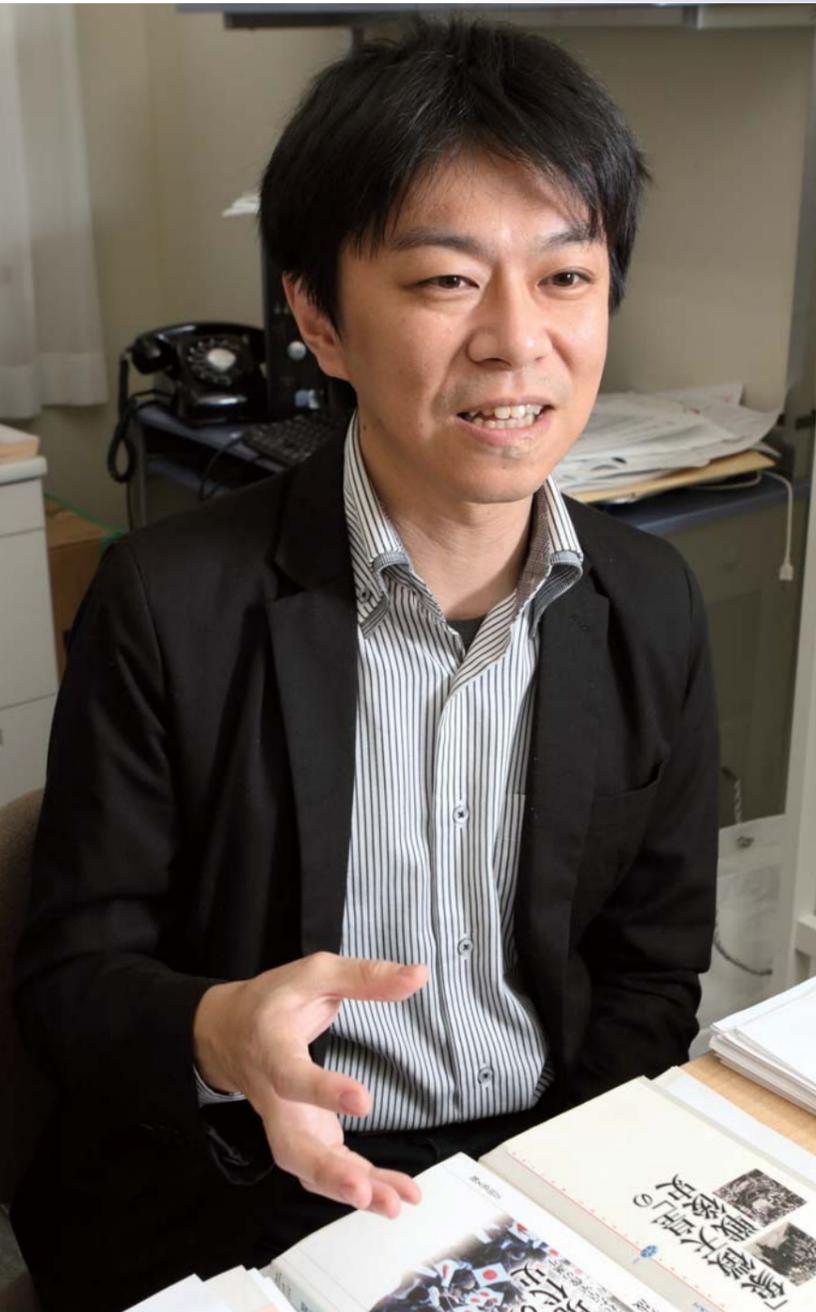
当時のGHQは、日本の天皇制を存続させながら円滑な占領政策を施行したいと考えていました。しかし、海外からは天皇や天皇制への批判の声があり、それを緩和するために、天皇制は変わったと国際的にアピールする必要



■明治元年3月13日(旧暦)、明治天皇の勅命により有栖川宮権仁親王が揮毫した五箇条の御誓文の原本。[高松宮蔵版 権仁親王行實(1933年出版)より]

象徴天皇とはどんな存在でしょうか？

戦前までの天皇は国民にとって神様のようで絶対的な存在でしたが、戦後の象徴天皇はこうあって欲しいという国民の理想や思い、国家を現わす概念です。時代背景とともに象徴天皇像を追ってみると、敗戦直後の日本は荒廃し、貧しく、犯罪も多かったため、国民は道徳的な天皇を求め、メディアもそうした姿を報じました。経済が成長してくると、求められる姿は家庭的になり、特に若い皇太子夫妻が注目されました。



象徴天皇制は私達の概念によって成り立っています。つまり、私達が考えることが象徴天皇制の未来を作っており、私達の選択により世の中は変えられる。そのことを声を大にして伝えたいです。

ラブソングはその時代の、恋する状況を示したものだ。戦後日本の、特に1990年前後のラブソングから、男女の恋愛をめぐる状況の変化を分析しています。

この本の読者が一つのテーマに対しての多様なアプローチを知り、自分が関心を持った切り口から、新たな分野にも興味を持つてくれるといいですね。

やりたい研究は2つあります。一つは、歌詞や曲の分析。歌詞は時代を投影する歴史史料ですから、そこから当時の状況を明らかにしていきます。

象徴天皇制は天皇個人の行動に依存する形になっています。象徴の意味は政府も明確に定義していません。

国民とは違う点が見え、一気に人気が下がるといふ現象が起こります。

象徴天皇制は私達の概念によって成り立っています。つまり、私達が考えることが象徴天皇制の未来を作っており、私達の選択により世の中は変えられる。

豊かさを追求していた国民にとって、近代的なライフスタイルを送る夫妻は、いつかはあなりたいという理想として映ったのです。

国民と何かを一緒にしてくれる天皇であり、だからこそ尊敬できるよい人だと思われている。

また、ゼミでは「教科書に書いてあることは絶対ではない」と言っています。

そうです。象徴天皇制は天皇個人の行動に依存する形になっています。

若い皇太子は、講和条約を結んで再び独立する「新生日本」にふさわしい存在として期待され、人気もあり、そろそろ結婚されるのではと騒がれていた。

象徴天皇制は私達の概念によって成り立っています。つまり、私達が考えることが象徴天皇制の未来を作っており、私達の選択により世の中は変えられる。

国民の支え、慰めとなる存在です。

天皇や皇族のイメージが高まっている時に、たまたまメディアで実像が発表されたり、姿を目にしたりとすると、国民の理想とは違う点が見え、一気に人気が下がるといふ現象が起こります。

また、ゼミでは「教科書に書いてあることは絶対ではない」と言っています。

国民と何かを一緒にしてくれる天皇であり、だからこそ尊敬できるよい人だと思われている。

病を持つ人が増えています。雅子妃も、理想というよりは同じ悩みを共有する存在となり、象徴天皇制はより国民に身近に寄り添う形へと変わっていくのではないのでしょうか。

また、ゼミでは「教科書に書いてあることは絶対ではない」と言っています。



昭和天皇の全国巡幸(1949年5月・久留米)

ミッチー・ブームも同じです。民間出身の美智子妃はスターのように扱われ、象徴天皇制にも清新なイメージが広がった。

現在は過去の積み重ねです。歴史を学ぶことは、私達が今、どうしてここに居てこのような生活をしているのかを知る手掛かりとなり、未来の選択肢を増やします。

● 日常の行為を学問的に分析

一方で、先生は総合文化学科の著書シリーズ「日常を拓く知2 恋する」の編集もされています。

このシリーズは、日常生活と学問を結び合わせる手引書です。

私は大学生時代に合唱をしていたこともあり、歌を切り口に、歴史学的なアプローチを展開してみました。



「日常を拓く知2 恋する」編集：河西秀哉 監修：神戸女学院大学文学部総合文化学科(世界思想社)

よる本人達の思い悩みに迫りたいと思います。

また現在、日本の秩序を保つために天皇制が維持された理由について研究を進めています。

状況に陥った。人々は、敗戦によりバラバラになった国をなんとかして統合しようとし、平和の象徴として天皇制を残し、戦争を放棄して国民が天皇のもとに

天皇の戦争責任論も多く展開されたにも関わらず象徴天皇制が継続したのは、それまでずっと天皇制があったために他の体制が想定できなかったというのが私の仮説です。

思っています。



■河西秀哉(かわにし・ひでや) 名古屋大学大学院文学研究科博士課程後期修了。専攻は日本近現代史。博士(歴史学)。京都大学文学部助教授を経て、現職。著書に「皇居の近現代史 開かれた皇室像の誕生(吉川弘文館)」、「象徴天皇制(講談社選書メチエ)」、編著書に「戦後史のなかの象徴天皇制(吉田書店)」、「日常を拓く知2 恋する(世界思想社)」など。主な論文に「戦後社会と象徴天皇制—明仁天皇・美智子皇后に焦点をあてて—」など。



原著者の想いを 読者のもとへ

— 文章を紡ぎ直し、伝えられる喜び —

● 出版翻訳者
増田 沙奈 さん — MASUDA Sana

就職してからも独学でコツコツと翻訳力を磨き、出版翻訳会社のトライアルに幾度となく挑戦し続けた増田沙奈さん。昨年末には思想家ソローの『モノやお金がなくとも豊かに暮らせる』、7月(予定)にはマーティン・ハンドフォードの絵本『ウォーリーをさがせ! THE COLOURING BOOK ぬりえブック』と、手掛けた訳書が次々と着実に刊行されている。今、フリーランスの出版翻訳者として活躍するその背景には、原著者や読者、出版社への真摯な姿勢と「自分らしさ」を大切にしている心がある。



■ 増田沙奈(ますだ・さな)
2009年神戸学院大学 文学部 英文学科卒業。卒業後、メーカーに勤務しながら翻訳の勉強を続ける。12年に退職し、フリーランスの出版翻訳者に。主な訳書に『モノやお金がなくとも豊かに暮らせる。もたない賢者がいちばん(興福館)』『スマートサイジング 価値あるものを探す人生(駒草出版)』『3にんのおひめさま(フレーベル館「キッズブック」)』など。

◀ 今年の夏に刊行が予定されている
『ウォーリーをさがせ! THE COLOURING BOOK ぬりえブック』(フレーベル館)



● 大好きな翻訳の世界へ

「絵とのバランスを考えながら訳していると、ゾクゾクするんです。大好きな絵本をはじめ、エッセイや健康本など様々な本の翻訳を手掛ける増田さん。翻訳に興味を持ったきっかけは、中学生の時に観た映画『タイタニック』。主人公ローズが沈みゆく船上で恋人ジャックを探し「I'm here」と呼びかけた時、「助けて!」という字幕に驚いた。「知っている意味とは違う訳に、これが翻訳というものなんだ!と感動しました。」

もともと本も英語も好きだったため、将来は翻訳者になりたいと、大学は通訳・翻訳プログラムの神戸学院大学へ進学。授業では、翻訳の技術をしっかりと身につけながら、自由のびのびと訳すことを楽しんだ。特に、映画『魔女の宅急便』に英語字幕をつけた際は、タイタニックを観た時を思い出して、「私も同じことをしている!」と高揚した。好きなインテリア関連のカタログを翻訳し、プロの翻訳者である田辺希久子先生に「これはあなたにしか書けない文章ね」と褒められたことも、嬉しい思い出。「訳せることがとにかく面白くて、幸せでした。話しながら自然に笑みがこぼれる。」



増田さんが初めて翻訳を手がけた『3にんのおひめさま』。翻訳する際に込めた想いを綴ったカードも同封されている

は多いけれど出版翻訳はほんの数%だと、業界の厳しさも教わった。「生半かな気持ちでは翻訳者になれない。第一線で活躍される先生に直接教わり、話を伺えたことは、私にとって貴重な経験でした。」

● 会社員を経て、フリーランスに

卒業し、メーカーの海外営業部に就職した増田さんは、働きながらも翻訳の勉強を続けた。常に関わっていたいと、職場でも業務に関連する海外のニュースを翻訳し配信することを買っ

て出た。
そんな増田さんのもとに舞い込んだ初の翻訳仕事は、田辺先生の紹介による絵本『3にんのおひめさま』。「嬉しいので、即答でお受けしました(笑)」。



以来、翻訳の道へ進みたいという想いは益々募り、出版翻訳会社のトライアルに挑戦し、7回目で遂に合格。仕事を辞める決意が固まった。

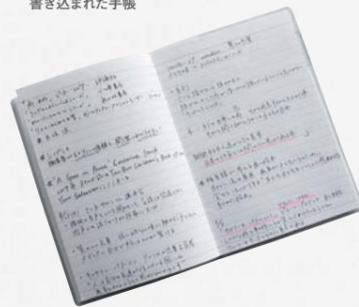
● 仕事との向き合い方

念願だった出版翻訳者としてのフリーランス生活は甘くはなかった。「当時は塾でアルバイトをしながら、翻訳の話が来ると、ジャンルを問わず全て受けていました。断ると次はないと思っ

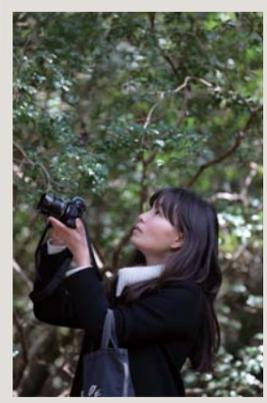
中。煮詰まったら、大学のテキスト『英文翻訳術』を読み返す。疲れたなど思ったら、趣味のカメラを片手に近所の奈良公園を散歩。一つ仕事が終わっ



▼ 気になる本や翻訳のアイデアなどがぎっしりと書き込まれた手帳



小さな時に絵本を読んだり読んでもらったりした記憶は、すこく幸せなもの。大人になっても残ります。長く読み継がれるものを手掛けたいですね



気分転換に訪れた奈良公園でカメラをパチリ

たら、休憩期間を設けて勉強する。「アウトプットばかりではなく、スキルアップも必要。訳し難かった文章を再訳したり、既訳がある本を自分でも訳して

● 伝えられる喜びを胸に

常に、一番よい形で作品を届けたいと考えている増田さん。翻訳する前にまず、原著者の動画や写真を探す。「顔や話す姿を見おくと、作品に入り込みやすくなるんです。難しそうな内容でも原著者がラフな語り口だと、少し砕けた感じに訳してもいいかな?とか考えます。」

出版翻訳者としてのやりがいを探ねると、「言葉は使い方で大きな力になる。私も、辛い時に本を読んでホッとしたり、元気になったりした経験があります。そんな力となる原著者の想いを、紡ぎ直し、読者に伝えられることが嬉しい」と返ってきた。

今後は枠に捉われず、自分が皆に知って欲しいと思う作品を扱っていきたいという。なかでも続けたいのは絵本の翻訳。「小さな時に絵本を読んだり読んでもらったりした記憶は、すこく幸せなもの。大人になっても残ります。長く読み継がれるものを手掛けたいですね。」

授業紹介：地域活性化総合実習



No Photo

●人間科学部心理・行動科学科3年生
甲斐さん (学年は取材当時)

『防災ウォッチ』で 楽しみながら防災意識をUP!



神戸女学院大学の副専攻プログラムのひとつ、「地域創りリーダー養成プログラム」では、3年次に「地域活性化総合実習」を履修し、地域住民を対象とする活動を学生自らが企画・実施している。学生が協働し、外部協力者との折衝等を行うことにより、地域社会のリーダーに必要な資質を育成することが目的だ。例年、複数のグループに分かれて活動が企画・実施されるが、2015年度は「子どもたちのための防災訓練」「農地を使った地域活性化」「地域での世代間コミュニケーション」「子どもの貧困問題」の4グループが活動した。今回は「子どもたちのための防災訓練」に取り組んだ防災班のリーダー、甲斐さんに話を聞いた。

「防災ウォッチ」の内容は？
最初にアイスブレイクとしてゲームやクイズをし、子ども達と仲よくなってから、地震で棚から物が落ちる様子や火災が発生する様子などの映像を見てもうりました。その後、身の周りにも危険なモノを妖怪に見立てて探してもう「妖怪探しゲーム」をしました。1人のリーダーにつき4・5人の小学生でグループを作り、8月は街中に出て津波を想定しながら、12月は屋内で地震を想定しながら行いました。オリジナルの妖怪図鑑を配布して、危険物をイメージした悪い妖怪を見つけたらクイズに答えて退治。災害時に身を守ってくれる物をイメージしたお助け妖怪を見つけたら仲間にしてシールを貼る。という風に、遊びをたくさん盛り込みました。準備はどのように進めましたか？
基本的にアイデアは自分達で出し合いました。作業は開催の3カ月前から、メンバーそれぞれ得意分野が違ったので、妖怪を考える人、絵を描く人、パソコンで図鑑などを作る人：と、うまく役割分担ができ、スムーズに進みました。

防災班は、市内の小学生を対象に、昨年8月「防災ウォッチ～身近な自然災害を見つけよう～」を西宮市学文公民館にて、12月「防災ウォッチ～おうち妖怪を見つけよう～」を神戸女学院大学にて開催。この活動は、ひょうご安全の日推進県会議によって阪神淡路大震災の教訓を発信する事業と認められ、「ひょうご安全の日推進事業」として助成を受けて実施された。



「ぼうさいウォッチ」のグループ写真

皆で神戸にある「人と防災未来センター」や鳴尾消防署にも足を運び、アドバイスやヒントも頂きました。小学生対象のイベントを企画したのも、防災センターの利用客は小学生が多いということを知ったからなんです。
子ども達の反応は？
皆走りまわって、私達の予想以上に楽しんでくれました。後でビデオを観たら、歓声でマイクの音が割れていたほど笑。追跡調査では、「子どもが家で、ココに妖怪がいるから気をつけて！」と教えてくれた」等、ご家族からの様々な返信があり、嬉しかったです。
開催により何を頂きましたか？
防災意識が高まったのはもちろん、学部を超えた出会いがあり、防災センターや消防署、地域の方達とも繋がりを持ったことはとても大きいです。また、自分達の企画を提案、検証、実現させたことは、防災班全員の自信につながったと思います。
今後の抱負を聞かせてください。
防災班の取り組みを、4月から西宮市と一緒に進める事が決まりました。数カ月毎に市内の小学校で行う防災啓発課主催の防災訓練があり、そこで妖怪キャラクターが使われるんです。私達も進行の一部を担当します。よい基盤が出来たので、後輩達に引き継いで欲しいですね。そのためには、私達が成果をしっかり発表し、「このプログラムで学びたい！」と思ってもらわなくては。今、皆でどんな発表をしようかと模索中です。

授業紹介：iPadを使った授業



「iPadを使った授業の魅力」 ～家で動画を見て予習、教室では復習や応用～

●授業が「講義でなくなる」反転授業

タブレット端末「iPad」によって、授業が大きく変わろうとしている。それは単なるテクノロジーの進化だけでなく、授業を担当する先生の情熱から生まれる予習用オリジナルコンテンツの作成と配信が、学生たちを夢中にさせ、語学力と理解力を高めているといえる。そんなShawn BANASICK 教授の授業がおこなわれている英文学科3年生の教室を訪ねた。



●英文学科
BANASICK教授

iPadを使った授業
by
Shawn BANASICK教授

従来の授業は、先生が教壇に立って講義をおこない、その内容を聴き、黒板を書き写し、家庭で復習して知識を定着させたり、発展させたりするのが主流でした。反転授業とは、この在り方が文字どおり「反転」する教育方法です。家庭で私の配信するYouTubeを見て講義を受け、それで先に予習をし、学校ではその復習や応用をおこないます。
授業時間をより有効的に使うために、

なぜ「iPad」を使う授業なのか？
神戸女学院大学に来る前の9年間、私はアメリカの大学で教えていました。当時、アメリカでは中学校や高校でも普通の教科書に代わってタブレット端末を使った授業が導入され、増えていきました。私も、iPadを使うことで授業の雰囲気も変わり、学生たちのモチベーションが上がると考え、独自の授業プログラムを組んで毎週YouTubeに載せています。学生たちはこの20～30分の動画ファイル(授業ビデオ)を見て予習してから授業に臨みます。
▼「YouTube」で予習授業の「反転授業」
従来の授業は、先生が教壇に立って講義をおこない、その内容を聴き、黒板を書き写し、家庭で復習して知識を定着させたり、発展させたりするのが主流でした。反転授業とは、この在り方が文字どおり「反転」する教育方法です。家庭で私の配信するYouTubeを見て講義を受け、それで先に予習をし、学校ではその復習や応用をおこないます。



▼独自の授業用動画プログラム作成が重要な鍵
授業では、英語を上手に使えるようになること、国際関係の理解を通して視野を広め世界の動きを知ることの二つを同時に学びます。また、ゼミのテーマを選ぶ際の参考になる内容にもなっています。
毎回、授業内容は異なります。ある時



いきました
「iPad」を使った授業へ
iPadを使った授業は学生に人気で、最近、増えてきています。特に、英文学科の外国人講師の授業に用いられています。iPadというデジタルツールがもたらす反転授業の成果として、学生にとって勉強はしなくてはならないものから、好きでたまらないものに変わることを大いに期待しています。
講義時間を減らし、予習で得た知識をもとに、ディスカッションや質疑をおこなったりします。週一回の教室は貴重な時間なので、新しい知識を学んだり、記憶したりするのではなく、知識を実際に自分の力で活用することに重点を置いたのが反転授業です。まさに学びのインプットとアウトプットの場が逆になってしまったといえます。
授業は全て英語ですので、私の声を聞いてもらい、学生との会話を大事にし、一人一回はスピーチができるように心掛けています。できる限り学生とのコミュニケーションを深めて、考え方や理解度を知りたいと思っています。
は地図を描いたり、またある時はGoogleを使って情報を調べてプレゼンテーション資料を作成したりします。その時のテーマによってiPadの使い方は変わってきます。いかに学生たちに興味を持たせるかが根底にあり、そのためにゲーム感覚で答えを導き出したり、独自のコンテンツを作成して、語学力と理解度を高める授業にしたいと考えています。

映画を通し、グローバルな視点から社会問題を考える

●英文学科・共通英語教育研究センターのジョイントイベント

4月20日、神戸女学院大学の英文学科と共通英語教育研究センターの共催による第3回KC SOCIAL ISSUES FILM & LECTURE SERIESがジュリア・ダッドレー記念館において開催された。この上映会は、共通英語教育研究センターのMargaret KIM専任講師と英文学科の田辺希久子教授が企画。今回は「神戸女学院字幕翻訳グループ」が字幕を担当した。イベントにはOGや在学生、一般の方など約50人が参加し、上映後は活発なディスカッションも展開された。



(左から)KIM専任講師、OG・福島さん、田辺教授▶

——上映会開催の背景や目的をお聞かせください。

KIM先生 田辺先生と二人で、クリエイティブなことをしようと立ち上げました。開催は年2回。映画とレクチャー、ディスカッションを通じ、グローバルな視点から現代の社会問題に迫ります。誰でも参加可能なオープンイベントであり、私が担当するクラスでは宿題として事前にDiscussion Questionsを配布し、上映後の授業でさらに学びを深めるといった活動もしています。

田辺先生 上映会は字幕翻訳グループの発表の場でもあります。メンバーは英文学科・総合文化学科の学部生、大学院生、OGなど10数人。毎月1回、有志が集まり活動しています。

今回の作品は「The Matter of Cha Jung Hee」。OGの小倉峰子さんと福島純子さんが指導しながら、1年もの歳月をかけて字幕をつけました。皆、授業で字幕翻訳の経験はあるものの、60分もの作品を手掛けるのは初めてのよい経験になったと思います。

——今作品のテーマは「国際養子縁組」でした。これを選んだ理由とは？



田辺 希久子 教授 Margaret KIM 専任講師

田辺 2年前、上智大学でこの作品を観ました。その際、米日されていた監督のDean Borshtay Liem氏から「日本語訳をつけて欲しい」と依頼を受けたのです。

前編にあたるFIRST PERSON pluralも、第2回の上映会で字幕付きで紹介しました。

——広報で工夫した点は？

フライヤー配布だけでは足りないかと、キャンドルにPRシールを貼り、食堂や教室、めじらラウンジ、KCCルーム、トイレなど、皆の目に付く場所に置きました。楽しかったのはフラッシュモブ。食堂などで、音楽学部の有志に突然パフォーマンスをしてみたい、注目を集めてフライヤーを配りました。



▲自作のPRシールを貼ったキャンドル
▼引退式で学生自治会のメンバーと記念撮影



●フライヤー配布や景品プレゼント企画で多数の献血者を集めた昨年の「七夕献血」

昨年度は、アッセンブリアワーを利用して環境・バイオサイエンス学科の高岡先生とお料理研究部による講演会も開催しました。食育をテーマに、夏バテ防止レシピ等を紹介したんです。あと、七夕献血ではとにかく知って欲しいと思いい景品選びに力を入れたところ、予想以上に献血者が集まり、日本赤十字社から冬開催のお話も頂いています。

○学生自治会の取り組み

キャンドルナイトで女学院生の交流を深める

昨年11月20日、岡田山キャンパス中庭において、学生自治会初の試みである『キャンドルナイト』が開催された。当日は150人以上の女学院生が集まり、幻想的なキャンドルの灯りに包まれて、体育会によるパフォーマンスや音楽学部有志による演奏、文化部による体験イベントや展示などを楽しんだ。皆でアイデアを出し合い、クラブや同好会等との連携を図りながら、イベントの企画や大学行事のサポートをしている学生自治会。1年生の秋から会長を務める重松友希さんに、その活動内容やイベント開催の手応え等について、話を聞いた。



●人間科学部心理・行動科学科3年生 重松さん (学年は取材当時)

——まず、学生自治会の活動内容を教えてください。

主な活動は、3・4月に新入生対象のクラブ紹介とキャンパスツアーの手伝い、5月に愛校バザーの手伝い、7月に七夕献血、11月に私たちが初めて企画したキャンドルナイト。そして、昨年12月に4年ぶりの冬献血を開催したので、今年も実施できればと思います。

私が入会した時の自治会員は10人もいませんでしたが、自治会のことを知ってもらうために例年以上に工夫して様々な活動を行ったので、今は倍以上に増えて嬉しく思っています。

——初めての開催だったキャンドルナイト。準備はどのように進めましたか？

まず、消防署へ話を聞きに行きました。それから、経費を抑えるために入学センターでLEDライトを借りたり、ホームセンターで160kgものキャンドルを安価で購入したりと奔走。LEDは手作りの造花で飾り、切り絵などのオブジェも作りました。毎日遅くまで飾り付けの準備をし、クラブや同好会にも協力を募りました。

——当日は盛況だったそうですね。

トランプ・ロビックス部がオープニングパフォーマンスを、音楽学部の有志が演奏をし、大いに盛り上がりました。ほかにも、お料理研究部とKCCカンパニー・フェアトレード事業部が来場者にクッキーと温かい飲み物を配布。美術部はキャンドルサービス用のガラスへの彫り物体験を開催。美術部と写真部の作品はライトアップ展示しどれも好評でした。

——ほかにも様々なアイデアを生かした活動をされていますね。

——後輩へメッセージをお願いします。

キャンドルナイトの開催を通じ、多くのクラブや同好会の人達と仲良くすることができました。体育会がクラブ紹介での誘導を手伝ってくれたり、KCCが取材に来てくれたりと交流の場も広がっています。お料理研究部とのアッセンブリアワー企画も継続しますし、今後も皆と交流が深まるイベントをどんどん増やしていきたいです。

●神戸女学院字幕翻訳グループ・福島純子さんのコメント●

今回の字幕翻訳は、シーン毎に字幕の秒数を決める「ハコ割り」から携わりました。とても時間がかかりましたが、字幕つきの映画がこれほど多くの段階を踏んでいることを知り、勉強になりました。担当は1人あたり5～10分。直訳では通用しない字幕の世界。英語はもちろん日本語力の必要性を痛感しました。特に難しかったのは、主人公の人生を象徴する足形や靴が出てくるシーン。私は今作品で「国際養子縁組」問題を知りました。朝鮮戦争後、韓国では20万人を超える子どもが養子として祖国を後にし、主人公チャ・ジャンヒもその一人。社会背景を知るためにニュース等を調べ、何度も映画を観直して、適切な訳を考えました。

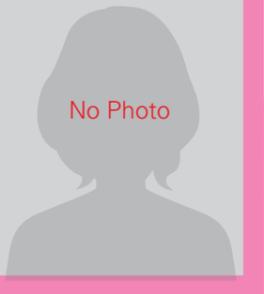


No Photo

●大島初枝記念賞受賞／フィリピンでファッションショーを開催

ランウェイ ゴミ山で暮らす子ども達に舞台を!

—ファッションを通して、生きることの楽しさを発信する—



●文学部総合文化学科3年生
にしがわ
西側 さん (学年は取材当時)

とにかくファッションに関することが大好きという西側愛弓さん。デジタル一眼レフを片手に世界を旅し、年1回、各国のストリートファッションを撮影した写真集『Charmer』を発刊する。また、昨年8月18日にはフィリピンのPamantasan ng lungsod ng maynila 大学講堂で、ファッションショーを開催。モデルとしてランウェイを歩いたのは、マニラ首都圏ケソン市にあるバヤタスというゴミ山で暮らす子ども達だ。西側さんがショー開催に込めた願いとは？ また、ファッションの持つ力とは？

■ やりたいことが見つかった

「ファッションを通じて生きることを表現している人に魅力を感じます」。高校時代は勉強にも部活にも興味を持って、確かなのはファッションが好きというところだけ。その生かし方がわからず、苦しかったという西側さん。このままではいけないと、高校2年生の夏に渡米。ポートランドに引っ越した親友との再会により、「私の悩みはちっぽけで、世界は広い。いつかいろんな国を旅したい」と思った。それまでは考えなかった進学に対して「大学で、誰もしたことがないことをしよう」と意識が一変。ファッション・海外・誰もやっていないこと。繋げると「世界を一人旅しながら、出会った人達のファッションを撮影し、雑誌を作る」という希望が見えてきた。

■ ストリートナップの写真集を作る

大学に入ると、西側さんは早速アルバイトで資金を貯め、1年生の冬にはもうニューヨークの地に立っていた。もちろん、撮影は下素人。英語もほとんど話せない。街頭でオシャレな人を見つけては撮影交渉をするものの、相手にされない。徐々に萎えていく気持ち。そんな時に声をかけてくれたのが、ストリートナップを撮っている現地のカメラマンだった。「横と一緒に撮影させてもらい、恥ずかしがらず、思い切りよく行動することなどを教わ

りました。断られても落ち込まなくなり、撮影を快諾してもらえるようになって友達も増えた。

2年生の夏には、モロッコやスペイン、フランスなど5カ国を巡った。クラウドファンディングで資金を調達し、昨年2月、『Charmer』を発刊。今年の2月には、アジア5カ国とニューヨーク、ロンドンを舞台とした2号目も完成した。

■ 撮影旅行で芽生えた思い

撮影旅行を重ねる一方で、西側さんが目の当たりにしたのは、モロッコなどの貧困地域で暮らす子ども達。自分はファッションを楽しめる環境に生きていると実感した。こうした子ども達にも、人生の夢を描けるような経験をしたい。ファッションショーはできないだろうか？ 写真集の制作が終わると、すぐに企画を練った。

貧困地域は身近にもある。開催地は渡航費も安く、周りの人の協力も求めやすいフィリピンに決めた。友達と2人でスタートし、運営スタッフはわずか6人に。プロジェクト名は『DEAR ME』。コンセプトは「ランウェイの上で夢を描く」だ。「貧困地域の子ども達がお金持ちになったり、いい仕事を得たりするのは難しいと思います。けれど、どんな状況でも、夢を描いてランウェイを歩いたことを思い出し、胸を張って生きて欲しい」。そんな思いを込めました。

■ 未来へバトンを繋げる

帰国後、西側さんは大学内で報告会を開催した。自分が卒業してからも、『DEAR ME』プロジェクトを続けて欲しいと思ったからだ。興味を持った後輩たちが50人程集まり、他大学の学生も含め、新たに9人が運営メンバーに加わった。また、このプロジェクトは、女性が自由に生きるための女子教育提供NGO「ガールパワー（一般社団法人女子力推進事業団）」の神戸支部として連携活動することも決まった。さらに、西側さんはこの度、神戸女学院大学が国際ボランティア活動に貢献した学生に贈る大島初枝記念賞を受賞。「すごく嬉しい！ 大好きな神戸女学院大学に活動が評価され、認めてもらえて誇りに思います」。

2月6日にはバヤタスで第2回『DEAR ME』を開催した。西側さん自身の今後を尋ねると、「やはりファッションを通じて人が夢を描くきっかけを作れたらと思います。掲げているのは、歩くパワースポット(笑)。私と会うことで人が元気になったり、夢を持てたり、可能性を広げたいと思ったり、そういう人になれたら最高です。発信することが好きなので、周囲の人を巻き込んで、これからのいろいろなことをしていきたい。年齢を重ねて落ち着いてから、家族旅行をして写真集の続編を作っても面白いですね。夢はまだまだ広がります」。



アジア5カ国とニューヨーク、ロンドンを舞台とした2号目の『Charmer』

Charmer

No Photo

New York

Philippines

DEAR ME



第2回
英語検定懸賞コンペティション
表彰式

「英語検定懸賞コンペティション」は、毎年1回、共通英語教育研究センター主催で行っています。全学年・全学科の学生対象に、各種英語検定において優秀な成績を収めた学生を表彰し、英語学習へのモチベーションを上げる事が目的です。また、英語でのコミュニケーション能力を身につけ、国際化する世界で誰もが気軽に海外の文化を理解し、留学先や社会で役立つ国際感覚を養い、世界で活躍する人材教育の基礎となることをめざしています。

対象となる検定試験は、【I】TOEICと【II】英検、TOEFL、IELTS、国連英検で、

【I】は第1部門：＜各学科内最高得点取得者の表彰＞と第2部門：＜入学時から応募時まで、最高の得点の伸びを示した者の表彰＞に分かれています。

【II】は第1部門：＜英検1級またはそれに相当するTOEFL、IELTS、国連英検の点数・級取得者の表彰＞と第2部門：＜英検準1級またはそれに相当するTOEFL、IELTS、国連英検の点数・級取得者の表彰＞に分かれています。

講堂で行われる表彰式で、学長から賞状と懸賞として図書カードが授与されます。

2015年度の受賞者のうち、【I】のTOEIC第1部門4名と第2部門5名を紹介させていただきます。

■＜受賞者一覧＞ ※学年は受賞時

I. TOEIC

◎第1部門 各学科内最高得点取得者の表彰
(懸賞 図書カード10,000円分)

- ・文学部 英文学科2年生 / 山野 さん：975点
- ・音楽学部 音楽学科声楽専攻4年生 / 藤井 さん：900点
- ・人間科学部 心理・行動科学科4年生 / 上阪 さん：865点
- ・人間科学部 環境・バイオサイエンス学科3年生 / 瀧 さん：745点

※総合文化学科は応募者なし

◎第2部門 最高の得点の伸びを示した者の表彰
(懸賞 図書カード10,000円分)

- ・文学部 総合文化学科4年生 / 五味 さん：570点
- ・人間科学部 環境・バイオサイエンス学科2年生 / 長下 さん：315点
- ・文学部 英文学科3年生 / 大北 さん：305点
- ・文学部 英文学科2年生 / 中川 さん：290点
- ・人間科学部 環境・バイオサイエンス学科3年生 / 瀧 さん：290点

II. 英検、TOEFL、IELTS、国連英検

◎第1部門 応募者なし

◎第2部門 (懸賞 図書カード10,000円分)

- TOEFL-ITP
音楽学部 音楽学科声楽専攻4年生 / 藤井 さん
文学部 英文学科3年生 / 山中 さん

- IELTS
文学部 英文学科2年生 / 渡辺 さん
文学部 英文学科1年生 / 影山 さん
文学部 英文学科1年生 / 先田 さん
文学部 英文学科1年生 / 佐久間 さん

※英検・国連英検は応募者なし

English Essay prize Competition
2015

第2部門 最高の得点の伸びを示した者の表彰

受賞者の声

TOEIC +570



●五味 さん 文学部 総合文化学科4年生
4年生の時に9ヵ月間、アメリカに留学し、帰国後はその英語力をさらに伸ばすために、年に3回TOEICを受けました。公式問題集を何度も解き、通学の電車では「TOEICリスニングテスト360問」と「TOEICテスト文法640問」というアプリを使ってトレーニング。週1回、英会話のレッスンにも通いました。入学当初、私は英語に苦手意識がありました。でも、留学して英語でたくさんの人と交流し、世界が広がるのを感じました。それで、英語を好きになったんです。いくら聞き取りや会話ができても、TOEICは形式に慣れる必要があります。本番のように時間を計って問題集を解いたのも、得点が伸びたポイントだと思います。

TOEIC +315



●長下 さん 人間科学部 環境・バイオサイエンス学科2年生
オーストラリアでの語学研修中に受賞メールを頂き、本当に嬉しかったです。得点が伸びたのは、1年生から必修科目として英語を学び、TOEIC対策の授業もあったからだと思います。私はアルバイト、部活動、サークル活動もしているので、時間の確保が難しく、早起して朝食をとるまでの30分間を英語学習にあてました。授業で使う公式問題集を解き、思い出せなかった単語を辞書でひいて例文を写し、その場で覚える。リスニングは問題集の付属CDを使い、シャドーイングして耳を慣れさせました。さらに英語力を身につけ、将来は食品関係の仕事に就いて、海外の人と食について意見交換したいと思っています。

TOEIC +305



●大北 さん 文学部 英文学科3年生
1年生の時にも受賞しましたが、今回は無理だと思っていたので嬉しかったです。受賞したのは、2年生の春に受けたTOEICの得点です。テストに向けて、春休みに毎日コツコツとリスニングのCDを聞き、単語帳を使って単語を覚え、練習問題を解きました。アルバイトや他の予定で勉強時間が取れない場合は次の日に補い、土曜と日曜は復習する日と決めて、トータルで勉強量を確保するようにしました。努力したぶんだけ点数が伸びることを実感できたので、今後もさらに得点アップを目指します。そして、留学生との交流や、就職先でも海外の人とコミュニケーションがとれるようになりたいと思っています。

TOEIC +290



●中川 さん 文学部 英文学科2年生
掲示板で案内を見てコンペのことを知り、自分の得点の伸びが学内でどのくらいのものなのかを知るために応募しました。得点が伸びたのは、授業のおかげだと思います。英語での講義、レポート提出、プレゼンテーションなど、英語に触れ、英語で考える機会が多くあり、そうした環境の中で英語力が身についたように感じます。TOEICのリーディングパートは難しい上に問題数が多いです。時間切れになることがあり、対策として、私は速読を心掛けた。英文学科では3年生の後期からゼミが始まります。ゼミで自分の英語力を最大限に活かし、専門分野の研究、論文の執筆にしっかりと取り組みたいです。

英語能力テストの好成績者をさらなる高みへ

◎第2回 英語検定懸賞コンペティション・表彰式

The 2nd English Essay prize Competition



特定の英語能力テストで条件を満たす成果を残した学生を表彰する「第2回英語検定懸賞コンペティション」の表彰式が、2016年5月6日、アッセンブリアワーで執り行われた。

このコンペは、学生のモチベーション向上のために共通英語教育研究センターが企画。TOEIC(IPを含む)を受験した応募者の中から、各学科の最高得点を取得した学生と最も高い得点の伸びを示した学生を、英検、TOEFL、IELTS、国連英検を受験した応募者の中から、既定の級や点数をクリアした学生を表彰する。

第2回目となる今回は、TOEICで9名、TOEFL-ITPで2名、IELTSで4名が受賞。語学留学や海外研修など、多方面での活躍が期待される。

第1部門 各学科内最高得点取得者の表彰

受賞者の声

TOEIC : 975

●山野 さん 文学部 英文学科2年生
私は長年、アメリカで生活していたので、帰国後は身につけた英語を忘れないように努力しています。なので、コンペに向けてではなく、常に英語を勉強しています。例えば、姉と英語で会話したり、英会話教室でアルバイトしたり。海外ドラマやyoutube、podcastも観ます。時間がある時は、洋書や海外ニュース、趣味に関する英語のブログも読みます。TOEICで大切なのは、まず、テストの形式に慣れることではないかと思っています。そのために、私はPearson Longmanの問題集に取り組みました。そして、英語は日々使っていかなないと身につけません。次に応募する人は、大学の先生方と英語で話すよといと思っています。

TOEIC : 900

●藤井 さん 音楽学部 音楽学科声楽専攻4年生
英語の勉強は、主に通訳・翻訳プログラムの授業で行っています。英語学習のチャンスは毎日授業の中にたくさんあり、それぞれのペースで取り組むことが大事だと思います。コンペに向けては、授業で出された英語の課題に一生懸命取り組みながら、苦手なリーディングを克服するために過去問題をたくさん解きました。リーディングの勉強中、長い長い英文を読むのが嫌になってしまった時は、自分の好きな洋書を読んで、「もっと英文を読めるようになりたい！」という気持ちをいつも持つように心掛けました。今後は、神戸女学院大学で養った英語力を仕事に活かしていきたいです。

TOEIC +290



●瀧 さん 人間科学部 環境・バイオサイエンス学科3年生
入学直後、文学館に前年度の結果が掲示されており、コンペの存在を知りました。その時、表彰されていた人の点数の高さ、伸びの大きさに感動し、いつか自分もスコアを伸ばして応募しようと思っていました。毎日、英語に触れていたことが得点の伸びに繋がったと思います。方法としては、高校時代に使っていた参考書の問題を解き直し、文法セクションをとにかく覚え、あとはパートごとに時間を計りながら問題を解いてスピード感を身につけました。将来は、英語を使う仕事に就き、海外でも働いてみたいと思っています。

TOEIC : 745

●瀧 さん 人間科学部 環境・バイオサイエンス学科3年生

コンペを意識し始めたのは3年生の時。フィリピンのミリアム大学に留学し、その成果としてTOEICで結果を出したいと思いました。高得点が取れたのは、目標のスコアを設定し、それに向けて勉強に取り組んだから。また、日頃から英語や洋楽を聞くようにしていたのも理由の一つだと思います。今回、以前より良いスコアを取れましたが、まだまだ自分の目標には達していません。これからもそこを目指し、勉強していきます。コンペに限らず、身につけた英語力はきっと世界を広げる助けをしてくれるはず。今後、コンペに参加する人も、あきらめず、自分の世界を広げるためにがんばって欲しいです。

TOEIC : 865

●上阪 さん 人間科学部 心理・行動科学科4年生

私は大学院入試のために、4ヵ月程かけてTOEICの勉強をし、結果がよかったのでコンペに応募しました。計画を立てることで目標を明確化し、日々の成果(できたこととできなかったこと)を確認しながら、復習をしっかりとすることが今回の高得点に繋がったのだと思います。1冊の問題集を何度も何度も繰り返し解き、苦手な文法には特に力を入れました。リスニングは、オーバーラッピングやシャドーイング等を復習として取り入れられました。1回毎の結果に一喜一憂せず、うまく点数が伸びない時は、勉強の仕方のコツをインターネットで調べたり、自己分析を繰り返したりして、いろいろな方法を試したのもよかったのかもかもしれません。



講演会・公開講座・コンサートなど

春季公開講座2016

●特別講座
「戦争に負けるということ」
日 時：7月23日(土)10:00～11:30
場 所：神戸女学院講堂
講 師：内田 樹(神戸女学院大学名誉教授)
受講料：無料・申し込み不要
※小学生以下のご入場はご遠慮ください。
問い合わせ：総務課 TEL 0798-51-8505

講演会

●カウンセリングルーム主催 春の特別講義
「発達障がいのある学生への合理的配慮のこれからのかたち」
日 時：6月24日(金)10:35～11:25
場 所：神戸女学院講堂
講 師：岩田淳子 成蹊大学文学部教授・学生相談室専任カウンセラー
参加費用：無料・申し込み要 ※当日参加も可
お申し込みの詳細は以下のサイトをご覧ください。
http://www.kobe-c.ac.jp/gakuso/program/lecture.html
問い合わせ：神戸女学院大学カウンセリングルーム
TEL 0798-51-8541 FAX 0798-51-8542

音楽学部演奏会・公演

●ベガにオーケストラがやってきた! Vol.7(サマーコンサート)
日 時：6月28日(火)18:30開演
場 所：宝塚ベガ・ホール
参加費用：前売り500円 当日600円

●オータムコンサート
日 時：10月13日(木)18:30開演予定
場 所：宝塚ベガ・ホール

●音の響宴
日 時：11月7日(月)19:00開演予定
場 所：宝塚ベガ・ホール
参加費用：1,000円

●定期演奏会
日 時：12月2日(金)18:30開演予定
場 所：兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール
参加費用：2,000円
問い合わせ：音楽学部事務室
TEL 0798-51-8550 FAX 0798-51-8551
E-mail:music@mail.kobe-c.ac.jp

アウトリーチ・センターイベント

●子どものための七夕コンサート 第44回
日 時：7月2日(土)
第1部 11:00～12:00(10:30開場)年齢制限なし
第2部 15:00～16:00(14:30開場)小学生以上対象
場 所：神戸女学院講堂
出 演：「音楽によるアウトリーチ」履修生
参加費用：大人500円、子ども(19歳以下)300円 申し込み要
問い合わせ：音楽学部アウトリーチ・センター
TEL 0798-51-8584 FAX 0798-51-8551
E-mail:concertfch@mail.kobe-c.ac.jp

心理相談室ウィーク

●無料相談(要予約)
日 時：7月29日(金)～8月4日(木)10:00～17:00(土日除く)
場 所：神戸女学院大学心理相談室
申込期間：7月4日(月)～7月15日(金)10:00～18:00(土日除く)
※在学中の方及びその保護者の方のお申し込みは受け付けることができませんのでご了承ください。
●講演会(予約不要)
「いじめ」について考える
日 時：8月3日(水)13:00～15:00
場 所：神戸女学院大学エミリー・ブラウン記念館2階201室
講 師：小林哲郎(神戸女学院大学大学院教授)
問い合わせ：神戸女学院大学大学院心理相談室 TEL 0798-51-8554

金曜公開プログラム

●カウンセリングルーム主催 春の特別講義
日 時：6月24日(金)10:35～11:25
場 所：神戸女学院講堂
講 師：岩田淳子 氏(成蹊大学文学部教授・学生相談室カウンセラー)
※詳しくは、講演会をご参照ください。
●オルガンコンサート
日 時：7月1日(金)10:35～11:25
場 所：神戸女学院講堂
出 演：片桐聖子、前田直子
●講演会
日 時：7月8日(金)10:35～11:25
場 所：神戸女学院講堂
講 師：石合力氏(朝日新聞国際報道部長)
●礼拝
日 時：7月22日(金)10:35～11:25
場 所：神戸女学院ソールチャペル
説 教：学院チャプレン 飯 謙

●礼拝
日 時：9月23日(金)10:35～11:25
場 所：神戸女学院ソールチャペル
説 教：学院チャプレン 飯 謙

●卒業生によるコンサート
日 時：9月30日(金)10:35～11:25
場 所：神戸女学院講堂
出 演：未定

●派遣留学報告会
日 時：10月7日(金)10:35～11:25
場 所：神戸女学院講堂
発 表：未定

●研究所主催講演会
日 時：10月14日(金)10:35～11:25
場 所：神戸女学院講堂
講 師：未定
問い合わせ：チャプレン室 TEL 0798-51-8502

高校生等参加イベント

●オープンキャンパス
日 時：7月31日(日)、8月6日(土)、8月7日(日)、9月11日(日)10:00～15:00
内 容：模擬講義、キャンパスツアー、各種相談コーナー他
問い合わせ：入学センター TEL 0798-51-8543

●第7回絵本翻訳コンクール
参加申込締切：8月3日(水)
※申し込み後、課題図書をお送りします。詳しくは本学ホームページをご覧ください。
問い合わせ：入学センター TEL 0798-51-8543

●音楽学部夏期講習会(要申し込み、詳細は音楽学部ホームページをご確認ください)
日 時：器楽、声楽、ミュージック・クリエイション専攻
7月29日(金)～8月1日(月)(※受講資格：中学生・高校生)
舞踊専攻 7月29日(金)、7月30日(土)
(※受講資格：中学3年生以上、高校3年生優先30名まで)
場 所：神戸女学院大学音楽館
問い合わせ・申し込み：音楽学部事務室 TEL 0798-51-8550

●理学館体験
日 時：第1回 6月19日(日) / 第2回 7月31日(日) / 第3回 9月11日(日)
場 所：理学館S-24教室

●第11回 高等学校教員対象 環境・バイオサイエンス実験講座
日 時：8月6日(土)
場 所：理学館もしくはホルブルック記念館
参加費用：無料・申し込み要

●サイエンス体験
日 時：第1回 8月8日(月) / 第2回 8月27日(土)
場 所：理学館もしくはホルブルック記念館
参加費用：無料・申し込み要
問い合わせ先：人間科学部事務室 TEL 0798-51-8553 FAX 0798-51-8560
E-mail:taiken@mail.kobe-c.ac.jp

めぐみ会主催行事

2016めぐみ公開講座

●2016めぐみ講演会
「初めての お能 日本の美意識」
日 時：6月30日(木)10:30～12:00
講 師：シテ方観世流能楽師 越賀隆之 氏
会 場：神戸女学院めぐみ会館
受講料：1,000円(学生は無料) ※要予約(HPも可)

「ヴォーリスに聞く」
日 時：10月15日(土)13:30～15:00
講 師：作家・エッセイスト 阿川佐和子 氏
会 場：神戸女学院講堂
受講料：一般1,500円 学生1,000円 ※要予約(HPも可)

●2016アートセミナー
「医療小説大賞『悪医』(久坂部羊著)が投げかけた問い(全2回)」
第1回：9月7日(水)11:00～12:30
〈患者の思い〉VS〈医師の思い〉
第2回 9月14日(水)11:00～12:30
〈二人の主人公〉VS〈医療の社会的システム〉
—堤未果「洗みゆく大國アメリカく逃げ切れ!日本の医療>」を参考にして—
講 師：園田学園女子大学名誉教授 吉村 稠 氏
会 場：神戸女学院めぐみ会館
受講料：各回1,000円(学生は無料) ※要予約(HPも可)
問い合わせ・申し込み：公益社団法人神戸女学院めぐみ会
TEL 0798-51-3545 URL : http://www.megumikai.or.jp/

●「Vistas」アンケートのお願い●

神戸女学院大学広報誌「Vistas」をご覧いただきありがとうございました。
P.17～18にアンケートハガキがございますので、皆様からのご意見・ご要望等をお寄せください。

—※行事について特に記述のないものは、基本的に申し込み不要・無料です。—